

原爆投下から67年 ノーモアヒロシマ・ナガサキ・フクシマ

67年前の8月6日広島、8月9日長崎で原爆が投下されました。投下された日、両市でそれぞれ平和記念式典が開催されました。

松井一実広島市長は平和宣言で、東京電力福島第一原発事故を受け、市民の暮らしと安全を守るためのエネルギー政策の一刻も早い確立、「黒い雨」の援護対象区域の拡大を政府に求めました。また、「核と人類は共存できない」ことも訴えました。

田上富久長崎市長は平和宣言で、核兵器の非人道性を強調し、核兵器廃絶に向け具体的な行動を取るよう国際社会に呼びかけました。また、放射能に脅かされることのない社会の再構築、そのための新しいエネルギー政策を政府に訴えました。

一方、野田佳彦首相は「脱原発依存の基本方針の下、中長期的に国民が安心できるエネルギー構成の確立を目指す」と表明しましたが、大飯原発再稼働という動向を見る限り、全くのペテンでしかありません。更に、オスプレイの普天間基地への配備など、平和とは逆行しているとしか言いようがありません。

この今でも、原爆後遺症で苦しんでいる人たちがいるのです。政府の動向は、まさに、このような人たちや戦争で犠牲になった人たちへの背信行為です。JR東海労は、平和を希求し、憲法第9条を守り広げるために奮闘していこうではありませんか。



長崎平和公園

核と人類は共存できない！
核兵器・原発・殺戮兵器はいらない！